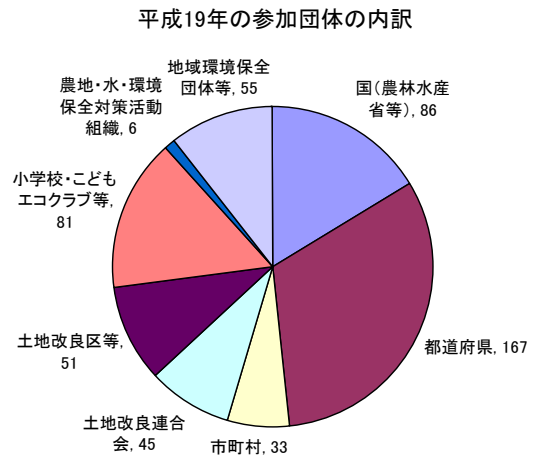
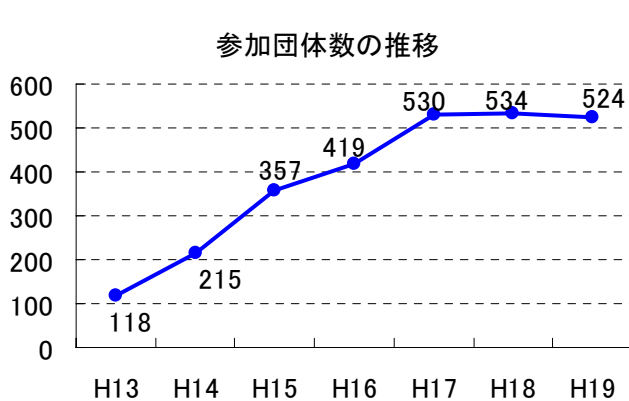


1. 参加団体数

平成19年度は、行政や地域の方々など合計524団体が調査に参加しました。このうち、地域住民や小学校等の一般の団体が142団体参加しており、本調査は水田とその周辺が多様な生きものの生息場となっていること等の農業の多面的機能の普及啓発や環境教育の役割を果たしているものと推測されます。



*土地改良連合会・土地改良区：水田等の農地の整備をしたり、農業用のため池や水路等の維持や管理を行っている組織です。
*農地・水・環境保全対策活動組織：国の進める「農村地域の資源を保全するための共同活動」を実施する地域組織です。

2. 小学生による調査状況



調査方法を勉強したよ



さあ、調査開始



カエルがいたぞ



たくさんとれたよ

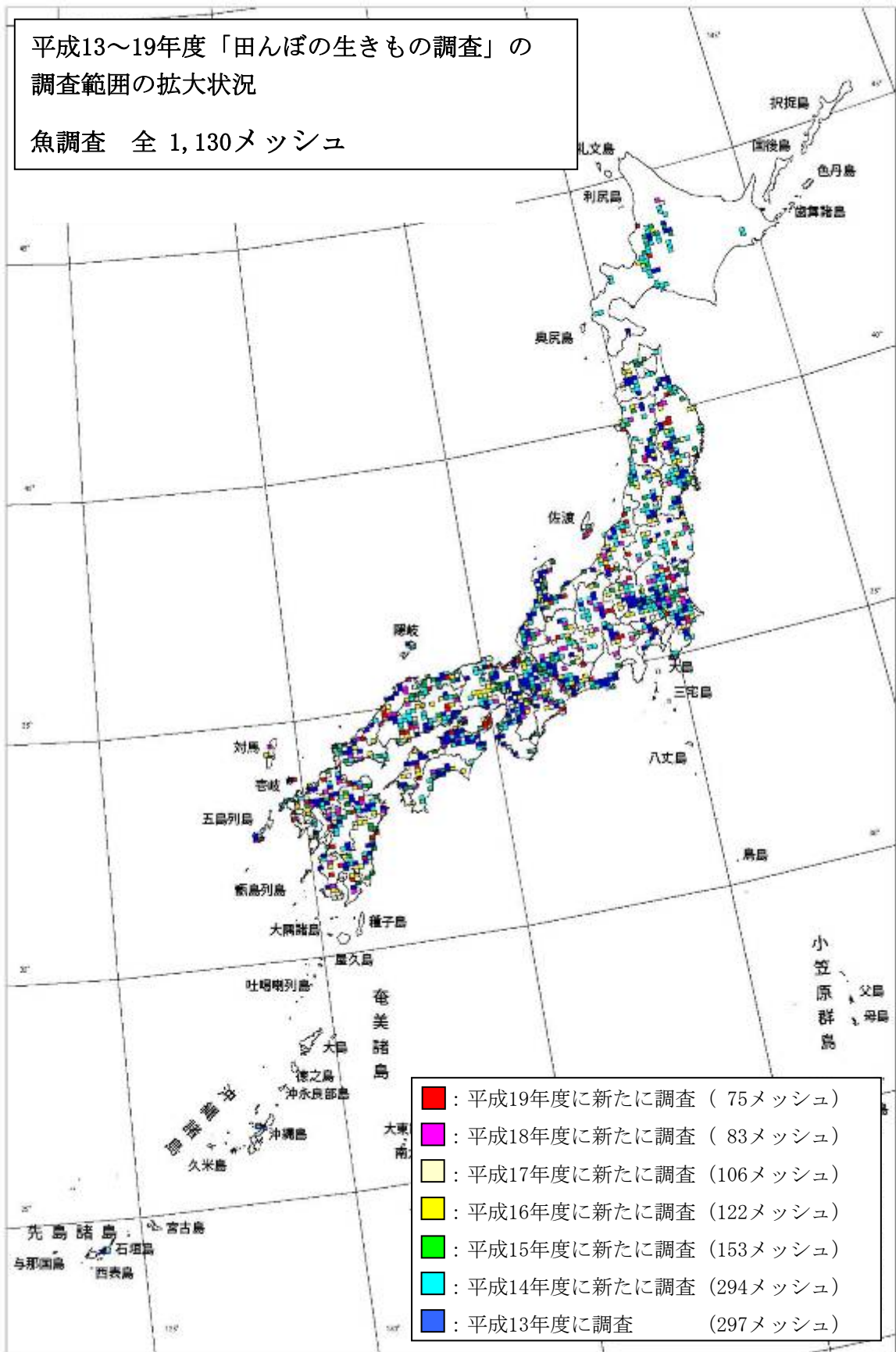


この魚の名前はなにかなあ



みんなで調査に参加したよ

図1. 「田んぼの生きもの調査2007」 調査状況



* 田んぼの生きもの調査では、調査地点を約10km四方 (2次メッシュ) であらわしたものを「メッシュ」とよんでいます。

図2. 「田んぼの生きもの調査」調査地区(魚類)

表1.「田んぼの生きもの調査2007」で確認された生きもの

●魚：88種

番号	目名	科名	属名	種名	希少種	外来種
1	ヤツメ科	ヤツメ科	カワヤツメ	スナヤツメ	☆	
2				カワヤツメ	☆	
-				カワヤツメ属	☆	
-				ヤツメウナギ科		
3	ウナギ科	ウナギ科	ウナギ	ウナギ		
4				オオウナギ		
5	コイ	コイ	コイ	コイ		
6				ゲンゴロウブナ		
7				ギンブナ		
8				キンブナ	☆	
-				フナ属		
9			アブラボテ	ヤリタナゴ	☆	
10				アブラボテ	☆	
11			カネヒラ	カネヒラ		
12				シロヒレタビラ	☆	
13				アカヒレタビラ	☆	
14			ハラナゴ	タイリクバラタナゴ		★
15				カゼトゲタナゴ	☆	
-				バラタナゴ属		
-				タナゴ亜科		
16	ワタカ			ワタカ		
17	カワバタモロコ			カワバタモロコ	☆	
18	オイカワ			オイカワ		
19				カワムツ		
20				ヌマムツ		
-				オイカワ属		
21			ヒメハヤ	アブラハヤ		
22				タカハヤ		
-				ヒメハヤ属		
23	ウグイ			ウグイ		
24				エゾウグイ		
-				ウグイ属		
25	モツゴ			モツゴ		
-				モツゴ属		
26	カワヒガイ			カワヒガイ	☆	
27				ビワヒガイ		
28	ムギツク			ムギツク		
29	タモロコ			タモロコ		
30	カマツカ			カマツカ		
31	ツチフキ			ツチフキ	☆	
32	ズナガニゴイ			ズナガニゴイ		
33	コウライニゴイ			コウライニゴイ		
34	ニゴイ			ニゴイ		
-				ニゴイ属		
35	イトモロコ			イトモロコ		
36	スゴモロコ			スゴモロコ		
-				スゴモロコ属		
-				コイ科		
37	ドジョウ			ドジョウ		
-				ドジョウ属		
38			Paramisgurnus	カラドジョウ		★
39			シマドジョウ	シマドジョウ		
40				ヤマトシマドジョウ	☆	
41				スジシマドジョウ小型種	☆	
42			フクドジョウ	フクドジョウ		
43			エゾホトケドジョウ	エゾホトケドジョウ	☆	
44				ホトケドジョウ	☆	

番号	目名	科名	属名	種名	希少種	外来種
-	コイ	ドジョウ科	-	ドジョウ科		
-				コイ目		
45			ギギ	ギギ		
46			ギバチ	ギバチ	☆	
47			ナマス	ナマス		
48			ワカサギ	ワカサギ		
49			アユ	アユ		
50			アメマス	アメマス		
51			ニッコウイワナ	ニッコウイワナ		
52			ヤマメ	ヤマメ		
53			アマゴ	アマゴ		
54			ニジマス	ニジマス		★
55			タウナギ	タウナギ		★
56			イトヨ	イトヨ		
57			ハリヨ	ハリヨ	☆	
58			トミヨ属淡水型	トミヨ属淡水型	☆	
-			トミヨ属	トミヨ属	☆	
59			エゾトミヨ	エゾトミヨ	☆	
60			ボラ	ボラ		
61			カダヤシ	カダヤシ		★
62			グッピー	グッピー		★
63			メダカ	メダカ	☆	
64			クルメサヨリ	クルメサヨリ	☆	
65			カジカ大卵型	カジカ大卵型	☆	
66			カジカ小卵型	カジカ小卵型	☆	
-			カジカ	カジカ	☆	
67			ハナカジカ	ハナカジカ		
-			カジカ属	カジカ属	☆	
68			スズキ	スズキ		
69			オオクチバス	オオクチバス		★
70			ブルーギル	ブルーギル		★
71			ギンガメアジ属	ギンガメアジ属		
72			カワスズメ	カワスズメ		★
73			ドンコ	ドンコ		
74			カワアナゴ	カワアナゴ		
75			スミウキゴリ	スミウキゴリ	☆	
76			シマウキゴリ	シマウキゴリ		
77			ウキゴリ	ウキゴリ		
-			ウキゴリ類	ウキゴリ類		
78			ビリンゴ	ビリンゴ		
79			ジュズカケハゼ	ジュズカケハゼ		
80			ウキゴリ属の1種 (ジュズカケハゼ関東型)	ウキゴリ属の1種 (ジュズカケハゼ関東型)	☆	
-			ウキゴリ属	ウキゴリ属		
81			マハゼ	マハゼ		
82			ゴクラクハゼ	ゴクラクハゼ		
83			シマヨシノボリ	シマヨシノボリ		
84			クロヨシノボリ	クロヨシノボリ		
85			トウヨシノボリ	トウヨシノボリ		
86			カワヨシノボリ	カワヨシノボリ		
-			ヨシノボリ属	ヨシノボリ属		
87			スマチチブ	スマチチブ		
-			チチブ属	チチブ属		
-			ハゼ科	ハゼ科		
88			カマルチー	カマルチー		★
	種数			88	25	10

●カエル：14種

番号	目名	科名	属名	種名	希少種	外来種
1	カエル	ヒキガエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル		
2		アマガエル	アマガエル	ニホンアマガエル		
3		アマガエル	アマガエル	ニホンアマガエル		
4				ヤマアカガエル		
5				エゾアカガエル		
-				アカガエル属		
6				トノサマガエル		
7				ナゴヤダルマガエル	☆	
8				トウキョウダルマガエル	☆	
-				トノサマガエル亜属		
9				ヌマガエル		
10				ウシガエル		★
11				ツチガエル		
12			アオガエル	シユレーゲルアオガエル		
13				モリアオガエル		
14				カジカガエル		
	種数			14	2	1

●外来種調査：ホテイアオイは確認されたが、カワヒバリガイは確認されなかった

注) 1. 希少種とは、環境省レッドリスト掲載種(情報不足は除く)とした。

2. ☆は希少種、★は国外外来種であることを示す。

3. タウナギは、沖縄ではその起源が不明あるいは原分布と考えられるが、九州以北のものは移入とされている。このため、本調査では、沖縄県以外の地域のものには便宜上「国外外来種」としている。

4. トミヨ属とは、これまでイバラトミヨあるいはトミヨとされていたものを示し、トミヨ属淡水型、汽水型、雄物型のいずれかの可能性がある。

5. カジカとは、カジカ大卵、中卵、小卵型のいずれかを示す。

6. カジカ属は東北地方で確認されており、本地域に生息する本属はすべて希少種であるため、希少種と判断した。



1位 ドジョウ



2位 ギンブナ



3位 タモロコ



4位 カワムツ



5位 メダカ *希少種



6位 モツゴ



7位 オイカワ



8位 トウヨシノボリ



9位 タイリクバラタナゴ *外来種



10位 アブラハヤ

図3. 「田んぼの生きもの調査2007」で確認地点数が多かった魚

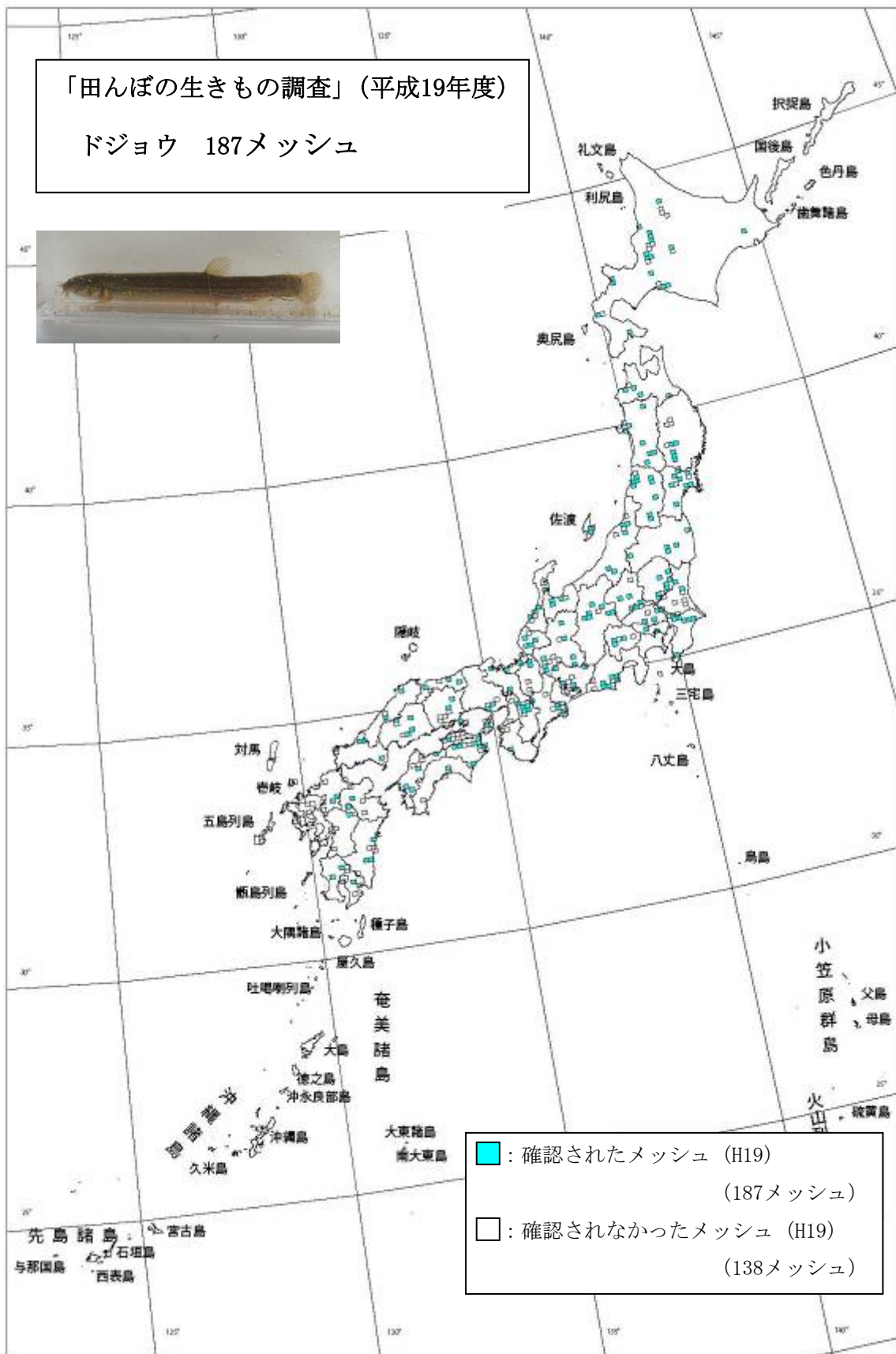


図4. 「田んぼの生きもの調査2007」によるドジョウの確認状況

2007年カエル調査結果の概要

■ 採捕地点数が多かった種

本年度のカエル調査は、全国349地点で実施され、全14種が確認されました。

全国で採捕地点数が最も多かったのはニホンアマガエルであり、全調査地点の50%以上にあたる179地点で採捕されました。ついで、トノサマガエル（125地点）、ヌマガエル（89地点）、ツチガエル（64地点）、ニホンアカガエル（46地点）の順となっています。

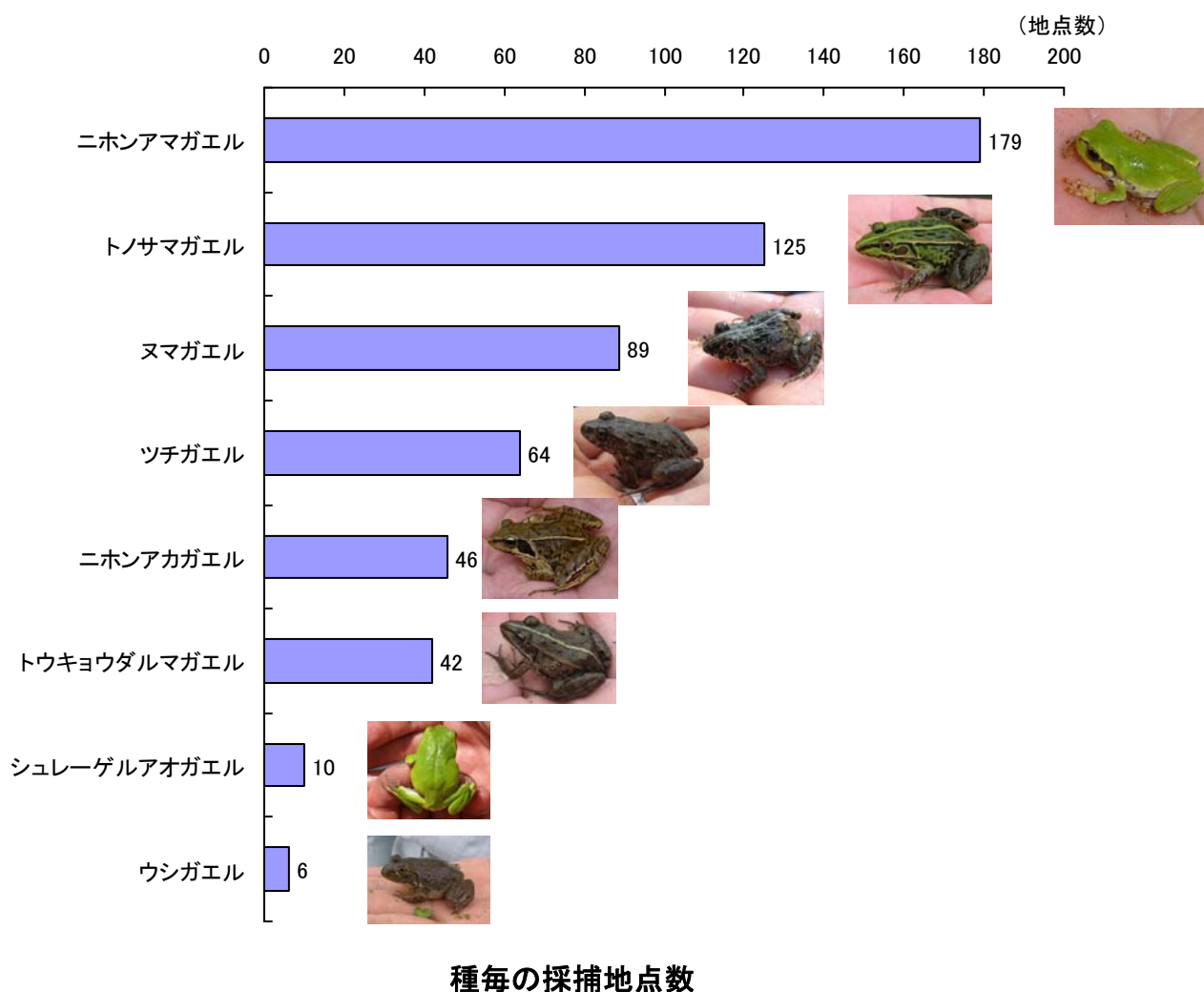


図5. 「田んぼの生きもの調査2007」で確認地点数が多かったカエル



1位 ニホンアマガエル



2位 トノサマガエル



3位 ヌマガエル



4位 ツチガエル



5位 ニホンアカガエ



6位 トウキョウダルマガエル



7位 シュレーゲルアオガエル



8位 ウシガエル

図6.「田んぼの生きもの調査2007」における上位8種のカエル

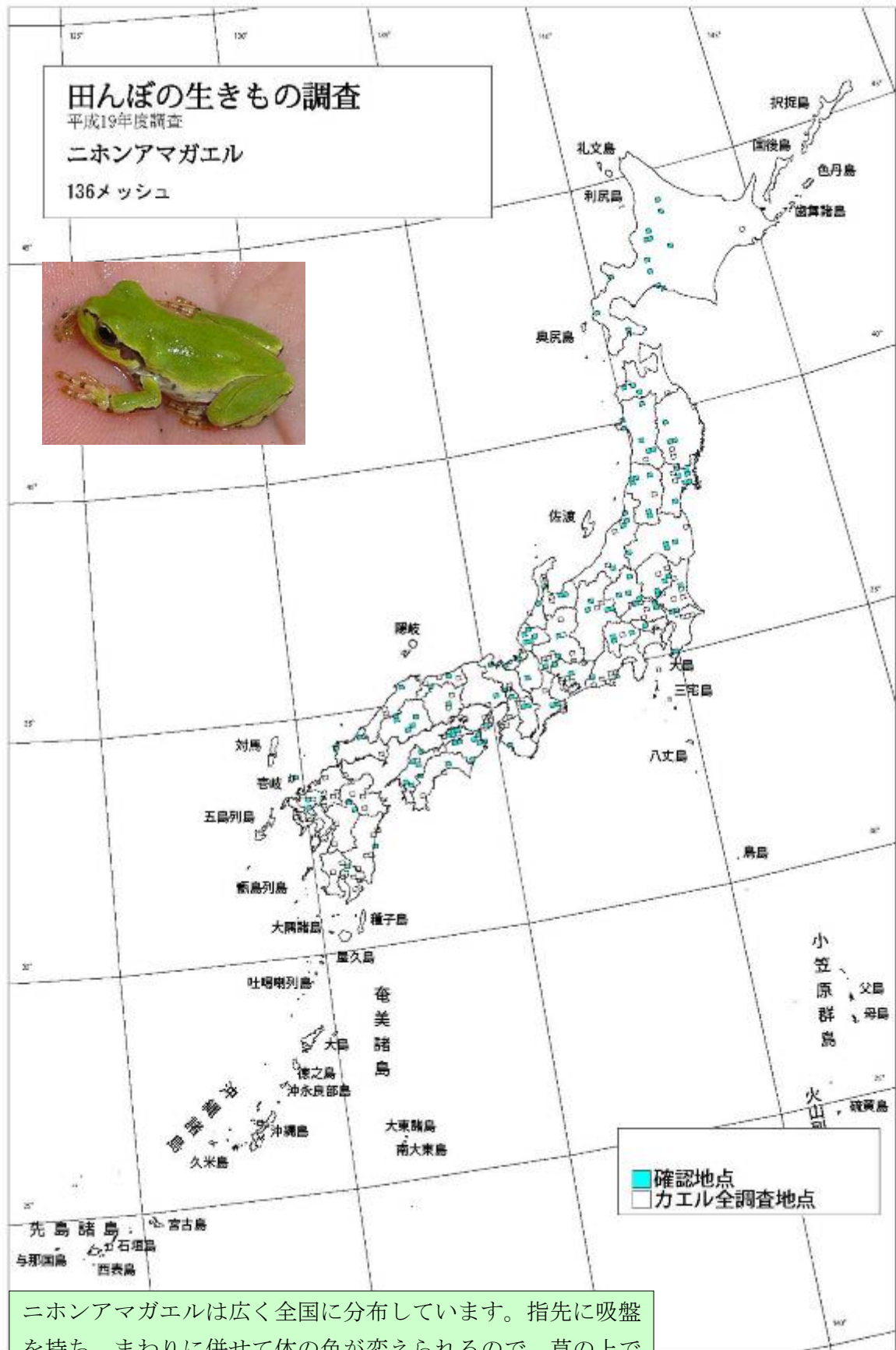


図7. ニホンアマガエルの確認状況(平成19年度)

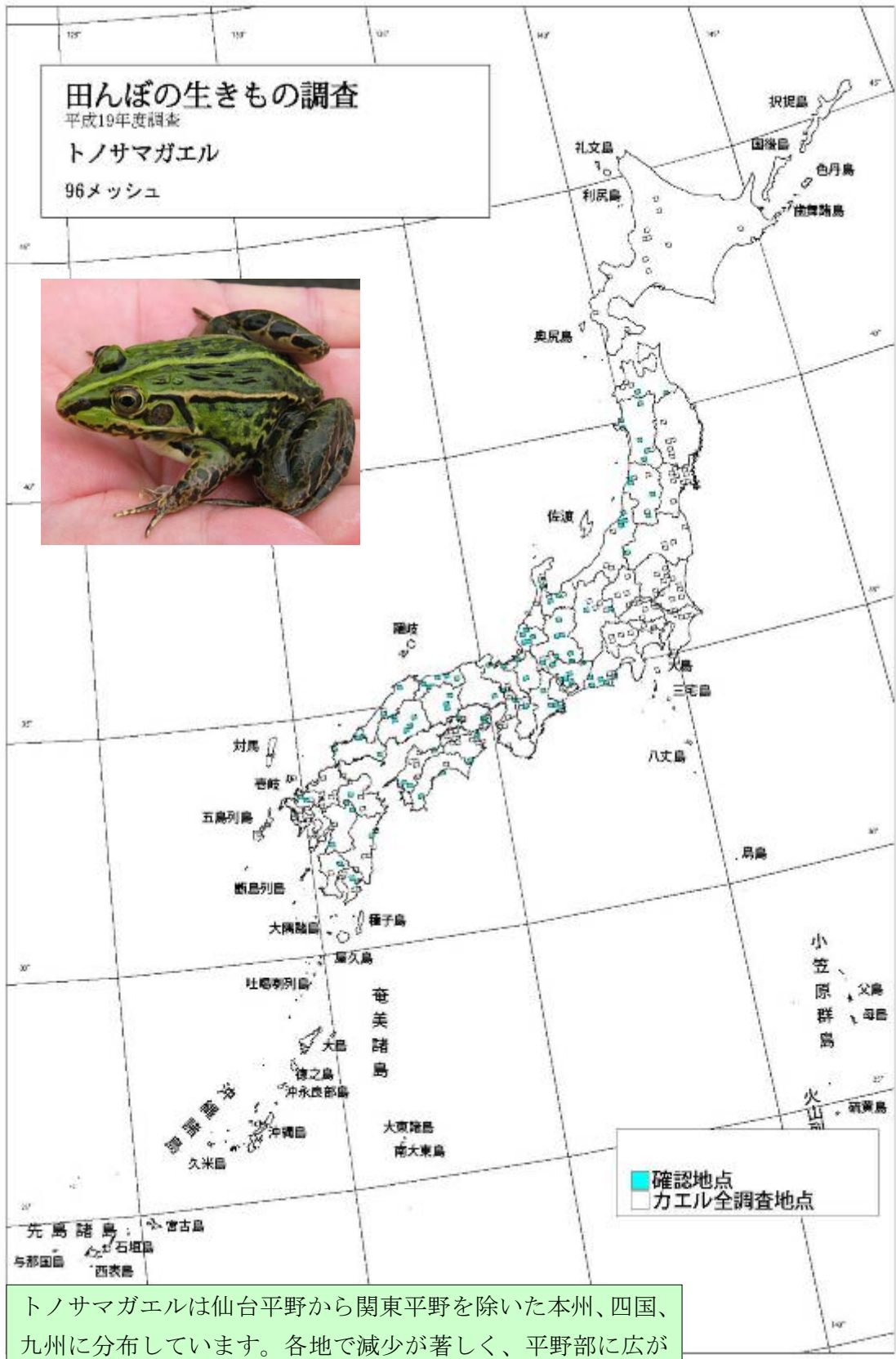


図8. トノサマガエルの確認状況(平成19年度)

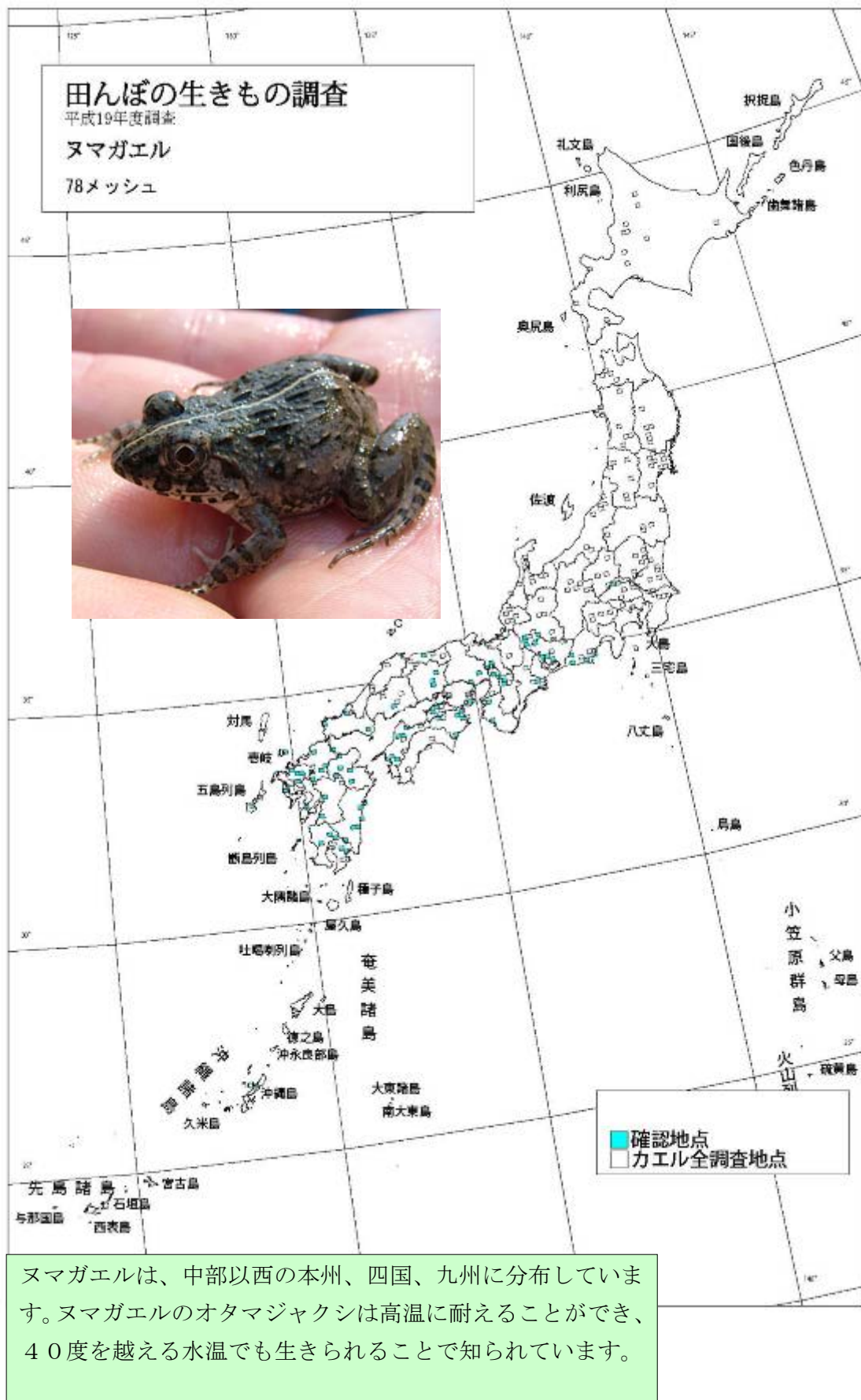


図9. ヌマガエルの確認状況(平成19年度)



図10. ツチガエルの確認状況(平成19年度)

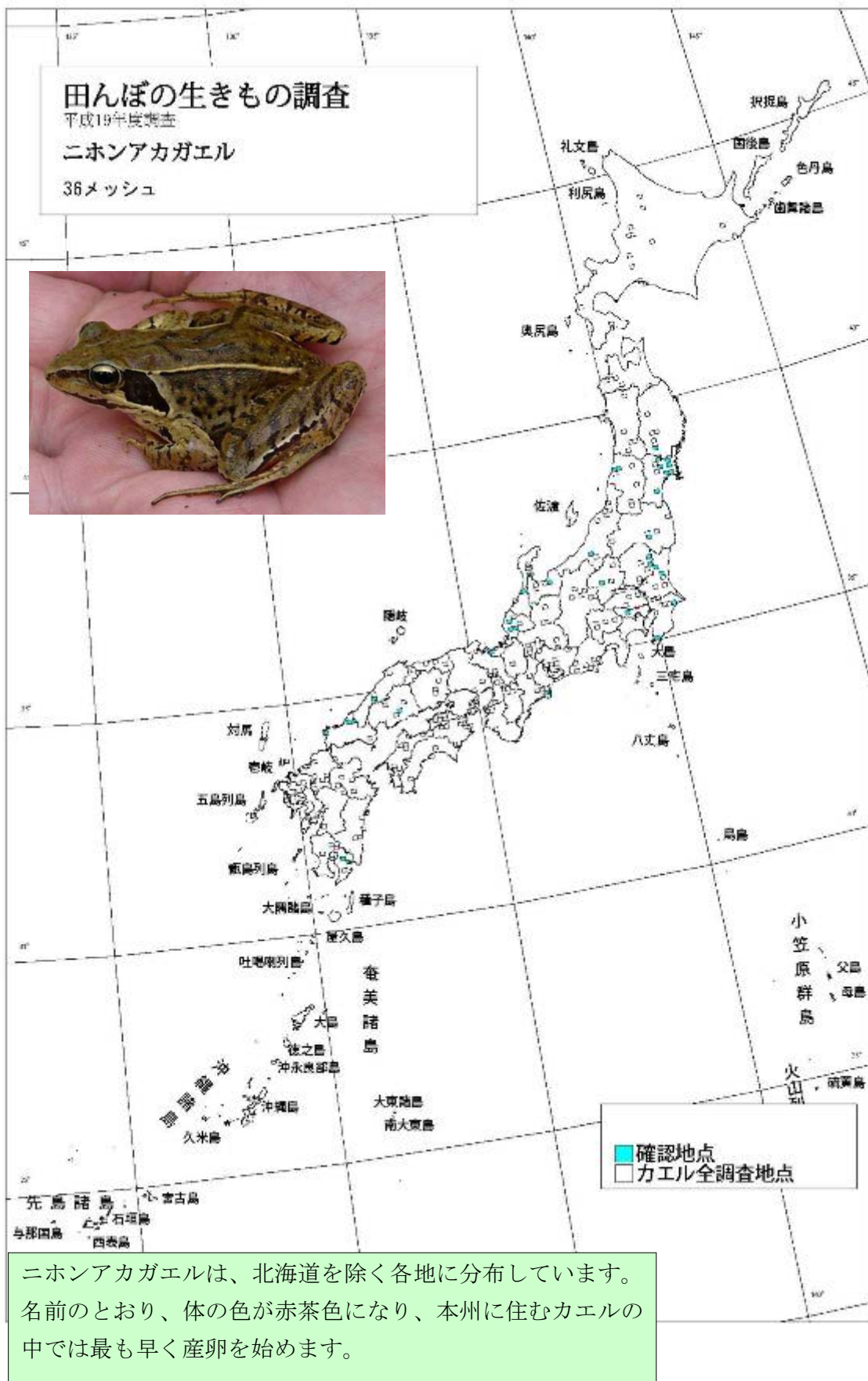
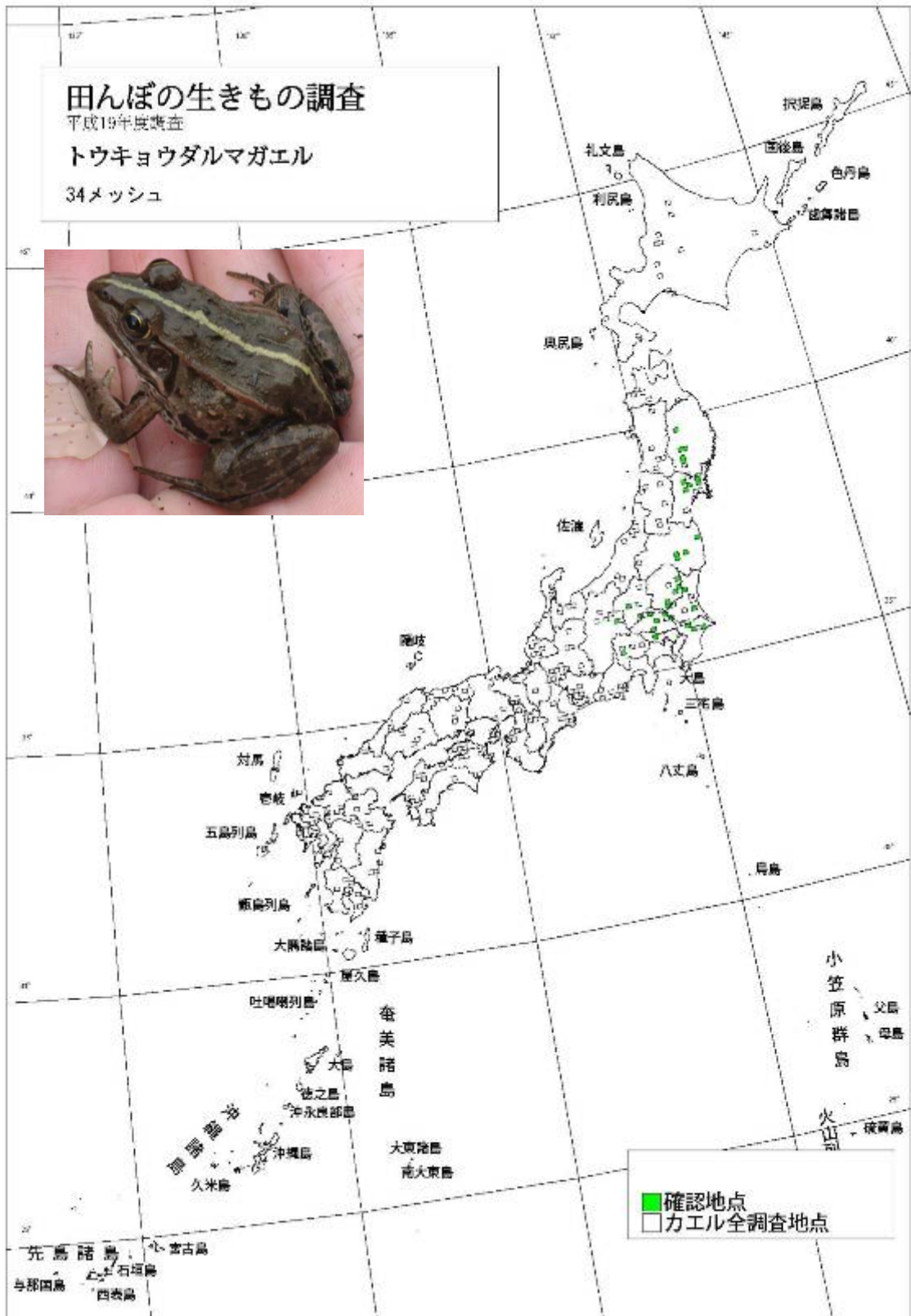


図11. ニホンアカガエルの確認状況(平成19年度)



トウキョウダルマガエルは関東平野や仙台平野に分布しています。トノサマガエルと似ていますが、四肢がやや短く背中にある黒っぽい斑点模様が独立していることで見分けられます。環境省のレッドデータブックでは、準絶滅危惧種（生息条件の変化によっては絶滅が危惧される種）に指定されています。

図12. トウキョウダルマガエルの確認状況(平成19年度)



図13. ウシマガエルの確認状況(平成19年度)

表2. カエルの生息状況(平成14～19年度)

平成14～19年度の調査により、合計4科19種（亜種を含む）のカエルが採捕された。これは、我が国に生息するカエル全43種（亜種を含む）の44%が確認されました。

番号	科名	種名	H14	H15	H16	H17	H18	H19	総計	希少種 ^{注1}	国外 外来種	
1	ヒキガエル	ニホンヒキガエル			1	1			2			
2		アズマヒキガエル	1	6	8		1	3	19			
3		オオヒキガエル		5	3	3	1		12		○特 ^{注3}	
4	アマガエル	ニホンアマガエル	237	273	252	245	199	179	1385			
5	アカガエル	タゴガエル			3				3			
6		ニホンアカガエル	55	48	52	48	43	46	292			
7		ヤマアカガエル	11	22	12	4	5	3	57			
8		エゾアカガエル	7	2	2	2	3	2	18			
-		アカガエル属 ^{注2}							1	1		
9		トノサマガエル	181	135	127	118	126	125	812			
10		ナゴヤダルマガエル	15	2	9	7	8	2	43	EN		
11		トウキョウダルマガエル	66	52	57	50	44	42	311	NT		
-		トノサマガエル亜属*							5	5		
12		ヌマガエル	175	116	130	116	117	89	743			
13	サキシマヌマガエル	2	4	3	3	2		14				
14	ウシガエル	16	8	11	9	7	6	57		○特		
15		ツチガエル	55	51	63	54	50	64	337			
16	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	3	5	3	2	7	10	30			
17		モリアオガエル				1	1	1	3			
18		カジカガエル			3	1	1	1	6			
19		リュウキュウカジカガエル				1			1			
種数			13	14	17	17	16	14	19	2	2	

注)1. 希少種とは、環境省レッドリスト掲載種としそのカテゴリーを記載した（情報不足は除く）。

また、対象となるのは元来その種が生息している地域のみである。

2. *を付したものは平成13～18年度には集計が行われていないため、空欄となっている。

3. 「○特」とは、特定外来生物であることを示す。

今年は「国際カエル年」の年です

両生類を絶滅の危機から救おうと、2006年に国際自然保護連合や世界動物園水族館協会が中心になって「両生類の箱船」プロジェクトが発足しました。

「国際カエル年」とはカエルをはじめとした両生類全体の危機的状況を知ってもらい、両生類を救うための活動参加を呼びかけることを目的に、「両生類箱船」プロジェクトが2008年に推進する世界的なキャンペーンです。

日本では、田んぼの生きもの調査結果からもわかるように、まだ多くのカエルが水田周辺に生息しています。

このような環境を将来にわたって維持保全していくために、今後も生物多様性に一層配慮した生産や維持管理活動を行う必要があります。

(国際カエル年に関するURLについては)

- ・ IUCN日本委員会

<http://www.iucn.jp/news/080117.html>

- ・ 社団法人 日本動物園水族館協会

<http://www.jazga.or.jp/>

- ・ 財団法人 東京動物園協会

http://www.tokyo-zoo.net/news/temp/2008_01/YOTF_statement.pdf

魚：25種



スナヤツメ (絶滅危惧II類)



アカヒレタビラ (絶滅危惧IB類)



ギバチ (絶滅危惧II類)

カエル：2種



ハリヨ (絶滅危惧IA類)



ナゴヤダルマガエル (絶滅危惧IB類)

*環境省レッドリストの категорияについて

「絶滅危惧IA類」：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

「絶滅危惧IB類」：IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

「絶滅危惧II類」：絶滅の危険が増大している種

「準絶滅危惧」：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

図14. 「田んぼの生きもの調査2007」で確認された主な希少種(魚・カエル)



カダヤシ



オオクチバス



ブルーギル



ウシガエル

*特定外来生物：「外来生物法」—特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律—により、海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定された生物

図. 15「田んぼの生きもの調査2007」で確認された特定外来生物(魚・カエル)

メダカは、環境省が実施した自然環境保全基礎調査により、691メッシュで生息が確認されていました。平成13～19年度の「田んぼの生きもの調査」結果を重ねると、新たに183メッシュでの生息が確認されました。

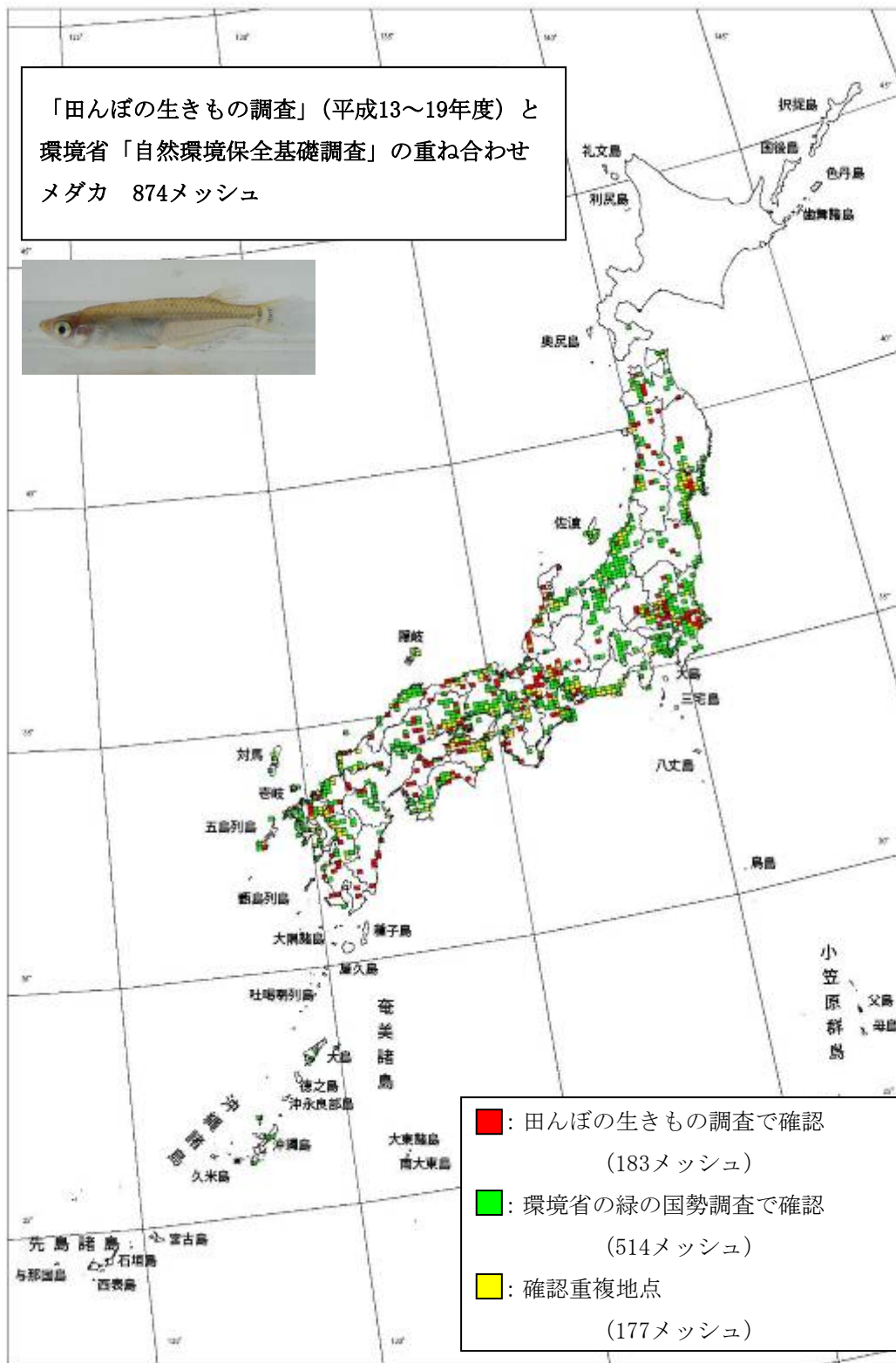


図16. メダカの生息状況

トウキョウダルマガエルは、環境省が実施した自然環境保全基礎調査により、155メッシュで生息が確認されていきました。平成14～19年度の「田んぼの生きもの調査」結果を重ねると、新たに91メッシュでの生息が確認されました。

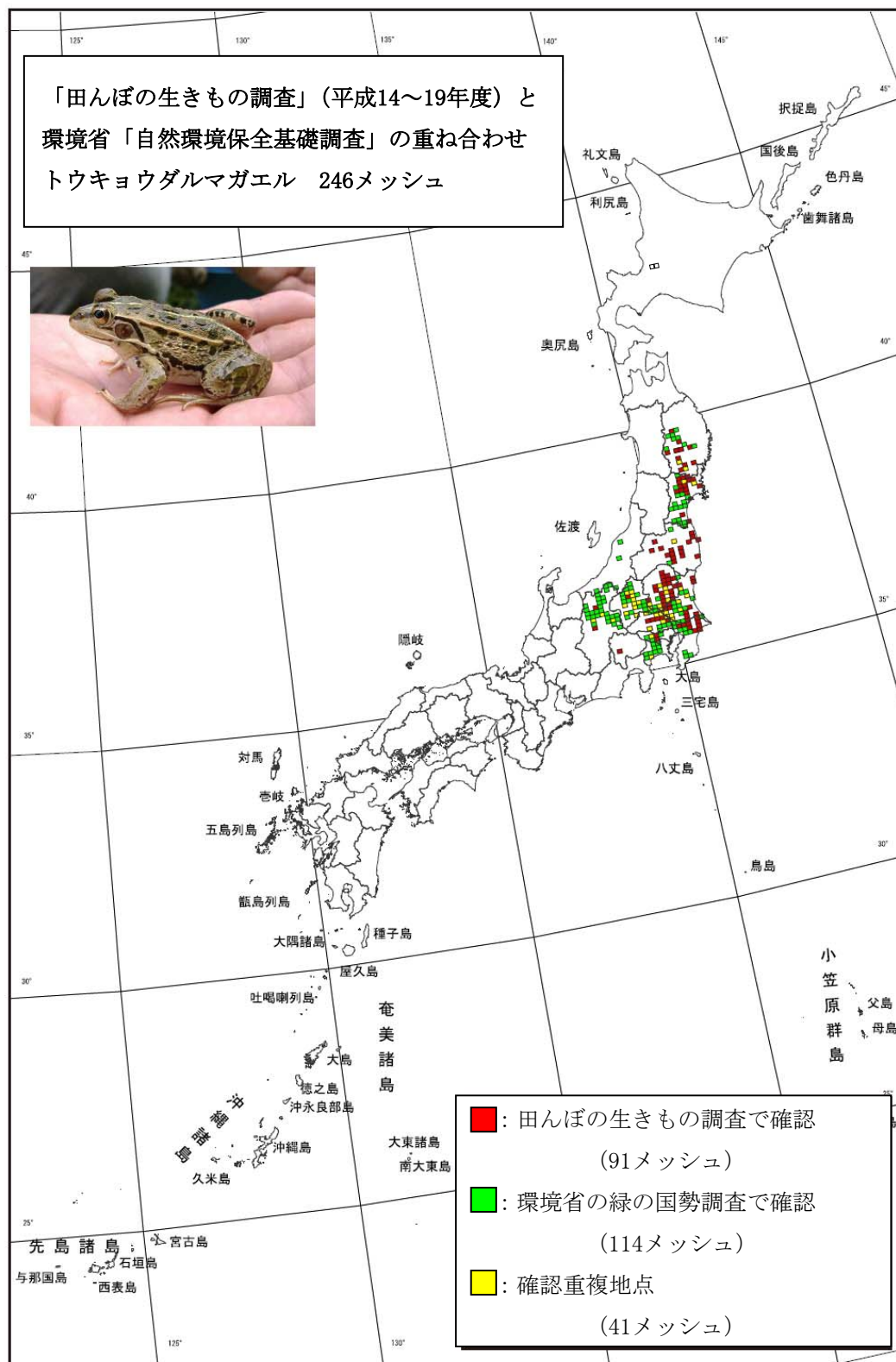


図17. トウキョウダルマガエルの生息状況

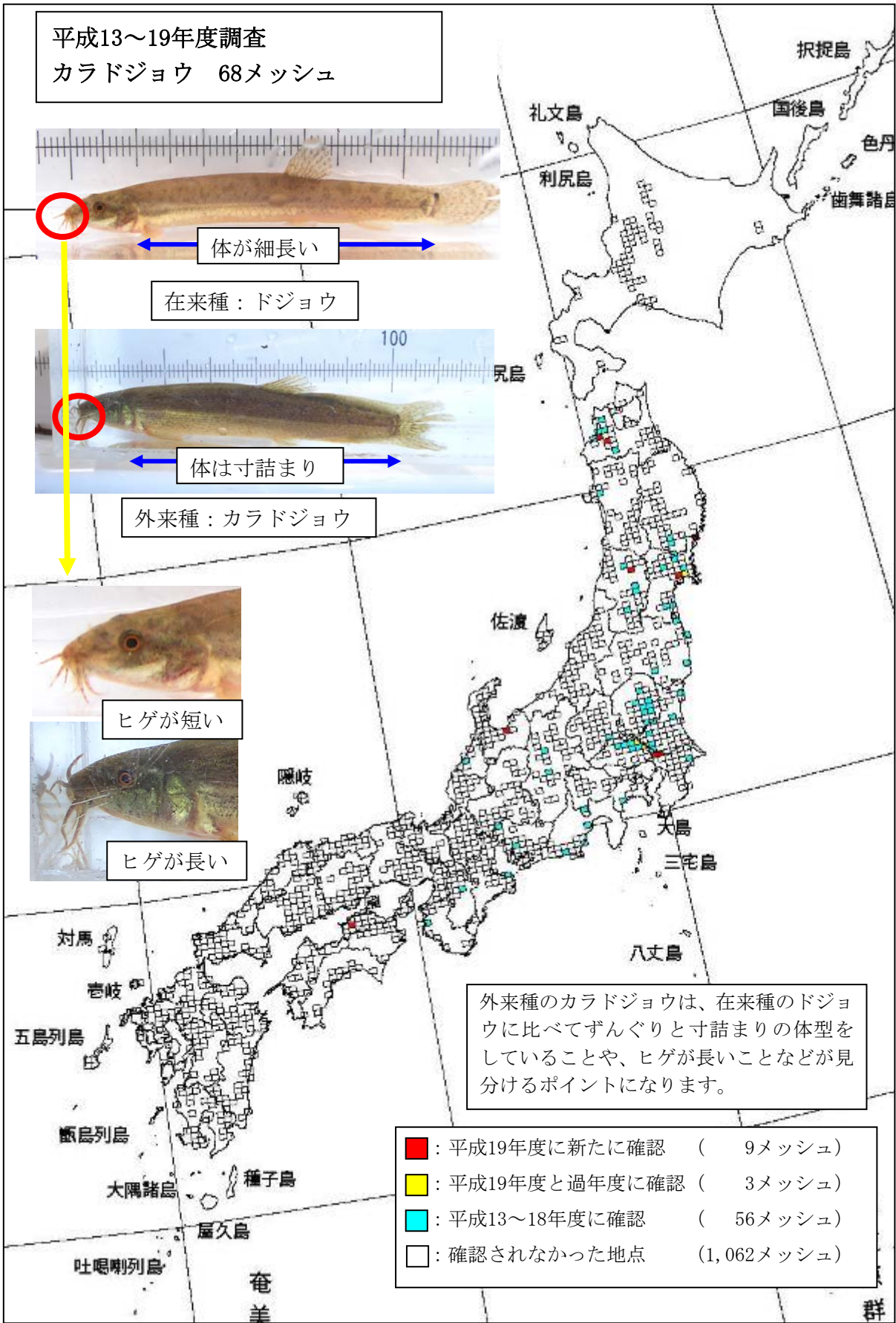


図18. カラドジョウの生息状況



図19. 「田んぼの生きもの調査2007」で確認されたホテイアオイ（外来種）

***本調査で対象としたカワヒバリガイとホテイアオイについて**

カワヒバリガイ（二枚貝、特定外来生物）は、水中の石や水路の壁面等に付着して生活しています。大量に発生すると水路の通水・取水障害を引き起こし、大量斃死すれば急激な水質悪化を引き起こします。また、吸虫類の第一中間宿主であり魚病被害を発生させたりし、地域の生態系に悪影響を及ぼすことがあります。群馬県などでは水路に大量発生したカワヒバリガイの除去作業が実施されています。

ホテイアオイ（植物、要注意外来生物）は、水路やため池等に生育する浮き草です。大量に発生すると水路の通水・取水障害、水中への光を遮り他の水生植物の光合成を阻害、溶存酸素濃度の低下等をもたらすことがあります。なお、徳島県は平成14年に7,000万円をかけて除去作業を実施し、その他、石川県河北潟、茨城県霞ヶ浦、奈良県吉野川、京都府、滋賀県淀川、岡山市、佐賀県、佐賀市、香川県府中ダム、沖縄県天願川等でも除去作業が実施されています。

○要注意外来生物：外来生物法の規制対象となる特定外来生物や未判定外来生物とは異なり、外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではありませんが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いするものです。

*参考資料：環境省ホームページ等

平成19年度調査
ホテアオイ 11メッシュ



図20. ホテアオイの確認状況